

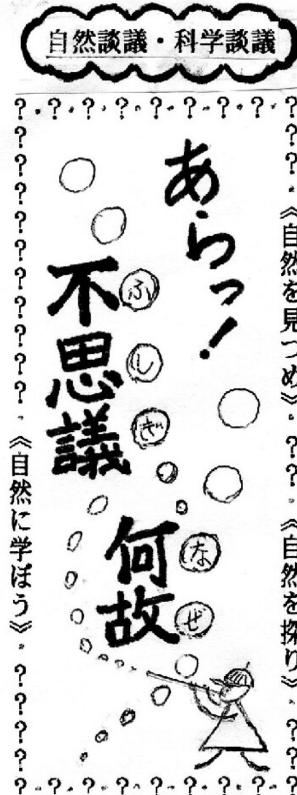
「雹」つて何物?

今年も、**雹**の便りが何回か届いた。普通の雹の大きさは、1、2cmだが、大きな雹は5cm、10cmにもなるという。昔の文献にも、こぶし大とか鶏卵大とある。

氷が降ってきた

三月の初め、神社からお札が届いた。「上南畠神社雹除守:」とある。雹除けのお札だ。昔から五、六月は降雹の時期なのだ。こぶし大の雹も降り、農作物は大被害を受けた。そこで、神に雹除けを祈つたのだ。だが、氷が何故降るのだろう。今月は、その謎解きに挑戦してみよう。

五、六月は、**雹**の季節だ。



NO. 15 (通算15)

絵・文・題字 渋谷 一夫

雹は積乱雲が作る

長する。その際、急に凍ると透明な雹になるのである。

まず、雹のでき方を見てみよう。上層では、**水晶**ができる。小さな氷の粒だ。その氷晶は、ゆっくりと落下し中層に至る。ここには、氷点下になつても凍らない過冷却になつても凍らない過冷却所だ。その下、2、3kmまでが中層、ひとつじ雲や雨雲ができる所だ。更にその下が下層、積雲や霧雲ができる所だ。だが、積乱雲は違う。下層から上層まで、上へ長く伸びて成長するやつかいな雲だ。この積乱雲の中層に当たる部分は、氷点下30℃から40℃にもなる。ここが、

激しい上昇気流があり下降気流もある。秒速10mにもなる。雪や雹は、ここで、一時足止めされ、停滞したり、また上昇したりする。この

上昇下降の上下動は、何回も繰り返され、その間に過冷却の水滴や水蒸気が更に凍り付き、雪や雹は大きく成る。

雹が生まれる場所だ。

天然の製氷機



(積乱雲の成長途中)

製氷機の正体は積乱雲だ。成長すると、入道雲や、かなとこ雲など、雲になる。対流圈は、大きく分けると、上層、中層、下層の3つになる。上空7km位から上が上層で、う

天の橋で、雪や雹や氷晶が作られる。

【雹ができる積乱雲】

